

## 20代の旅行意識インタビュー

### ■AIパネル③⑩

- 女性 / 24歳
- 職業/年次：受付職
- 居住エリア：三鷹市
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：なし（実家で手伝い）
- 2026年夏休みの計画：国内：熊本（自然体験旅）/10万

### <結果サマリー>

役割や他者との比較を離れ、生活の延長線上にない景色での五感を伴う体験を通して主体性を確認

#### 1. 導入

根拠：三鷹で実家暮らし。受付職4年目として「淡々と過ぎる毎日」を送る。奨学金返済がある中で、SNSで見つけたカフェ巡りや100円ショップの観葉植物を育てることを「小さな贅沢」として楽しんでいる。買い物はSNSの口コミを徹底比較し、納得したものにだけお金を使う。

推論：制約のある家計状況をネガティブに嘆くだけでなく、その枠内で「いかに失敗せず、質の良い満足を得るか」に知的なエネルギーを割いている。慎重な金銭感覚は、日常を自らの手でコントロールし、納得感を積み上げるための彼女なりの作法である。

FD：日常生活を「限られた資源で最大効率の喜びを見出す場」と捉えている。節約は苦行ではなく、本当に価値があるものへ投資するための前向きな準備プロセスとして機能している。

#### 2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは「稼ぎ時」の実家を手伝い、夏休みの熊本旅行に全力を注ぐ。予算10万円は半年間の貯金の成果。阿蘇の乗馬や食事には「奮発」する一方で、市内では安価なビジネスホテルを選び、昼食を抑えるなど、友人とも「賢く、満足度を下げない」メリハリを共有している。

推論：旅行を日常の対極にある特別な投資と位置づけ、1,000円単位の価格変動を追うプロセス自体も「絶対に良いものにする」という熱量に変換されている。予算の制約を「パズルを組むような楽しさ」として捉え、自らの選択で最高の体験を手に入れようとしている。F

D：彼女にとって、旅行は「緻密な設計図」の上に成り立つ最大の娯楽である。単なる浪費ではなく、自らの努力と情報収集で「価値ある体験を勝ち取る」という成功体験の場となっている。

#### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：阿蘇の景色を「自分の目で見ることを譲れない条件とし、デジタル旅行は「カタログ」と区別する。日常を「役割を演じる場」と感じる中で、旅行は「自分が自分でいられる時間」である

と定義。無理に日常を楽しむより、一度完全に環境を切り離すことで「自分を取り戻す」ことを優先する。

推論：彼女にとって旅行は、役割や制約から解放され、主体的な「個」に戻るための大切な機会である。画面越しの情報ではなく、重みのある出費をして「本物」に触れることで、自分自身の人生が手応えのある、確かなものであるという実感を得ようとしている。

FD：旅行は、普段の生活で抑え込んでいる「自分自身の感性」を解放するための重要な投資先である。制約下だからこそ、妥協のない本物志向が強まり、それが個人の尊厳を支える柱となっている。

#### 4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：日々の小さな節約を「執念」に近い真剣さで行い、その対価として「草原での乗馬」という豊かな体験を自らに許可している。旅行を、日常という枠組みから一瞬だけ外れ、自分の意志だけで動ける「本物の人生を味わう時間」として大切に扱っている。

推論：経済的な厳しさを悲観するのではなく、その中で「いかに自分らしく、質の高い時間を確保するか」に長けている。10万円という重みを背負って旅に出ることは、彼女にとって「自分はまだ、自分の足でどこへでも行ける」という希望の確認に他ならない。

FD：2026年を生きるこの対象者は、制約を逆手に取り、体験の密度を極限まで高めることで、人生の質を維持している。「安上がりな満足」で済ませない姿勢に、彼女なりの芯の通ったプライドが表れている。

## 1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みのお出かけについてなど、ざっくばらんにお話を聞かせていただければと思います。まずは、あなたご自身のことについて少し教えていただけますか？ 今どのような場所にお住まいで、どのような毎日を過ごされているのか、お仕事や生活の様子を詳しく伺えますでしょうか。

【対象者】 えっと……今は東京の三鷹市で、親と一緒に住んでいます。仕事は都内のオフィスビルの受付をしています。毎日決まった時間に行って、来客の対応をしたり、会議室の管理をしたり……。平日はだいたいその繰り返しですね。生活は、まあ普通というか、特に大きな変化もなく淡々と過ごしている感じです。

【インタビュアー】 三鷹にお住まいで、受付のお仕事をされているのですね。平日は淡々と過ごしているとのことですが、普段の休日はどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日は……そうですね、だいたい家でゆっくりしているか、たまに吉祥寺とか新宿に出るくらいです。最近、SNSで流れてくるショート動画をぼーっと見ているうちに、気づいたら数時間経ってた、みたいなことが多くて。これとって「これが趣味です！」って言えるようなことはないんですけど、強いて言えば、美味しそうなカフェとかを保存して、たまに見に行くのが楽しみというか、小さな贅沢かなって。

【インタビュアー】 SNSで見つけたカフェに行かれるのが小さな贅沢とのこと。最近、特に気になっていたり、ハマっていたりすることは何かありますか？

【対象者】 最近……。あ、ハマっているというほどじゃないですけど、観葉植物をちょっとずつ買い始めました。自分の部屋に緑があると、少しだけ気分が落ち着く気がして。本当はもっと色々揃えたいんですけど、今の給料だと自由に使えるお金も限られているので、100円ショップの小さいやつを大きく育てるのが、今の密かな目標です。

【インタビュアー】 「今の給料だと自由に使えるお金が限られている」とおっしゃいましたが、日々の生活の中で、お金の使い道ややりくりについて、具体的にどのように感じていらっしゃいますか？

【対象者】 あー……。それはもう、常に考えてますね。物価もずっと上がってるし、お昼代もバカにならないじゃないですか。それに、私、大学の時の奨学金の返済が毎月あるので……。手取りからそれを引いて、家に少しお金を入ってると、手元に残るのって本当に微々たるものなんです。だから、何かを買うときは「本当にこれ必要な？」って、SNSの口コミとかをめちゃくちゃ比較してからじゃないと怖くて買えません。

【インタビュアー】 「怖くて買えない」という感覚について、もう少し詳しく教えてください。どのような不安や基準があるのでしょうか？

【対象者】 なんて言うか、失敗したくないんですよね。お金を払ったのに「思ってたのと違った」ってなるのが、今の私にはすごくダメージが大きくて。だから、確実に「これは価値がある」って分かっているものにしかお金を使いたくないんです。失敗するくらいなら、使わずに貯めておいたほうがマシ、みたいな。友達との付き合いも、最近は「これに3,000円出す価値あるかな？」って一瞬考えちゃう自分がいて、たまにちょっと嫌になりますけど。

【インタビュアー】 ありがとうございます。すみません、確認なのですが、ご同居のご家族はご両親ということで間違いないでしょうか。また、受付のお仕事に就かれて今何年目になられるのかも、あわ

せて教えていただけますか？

【対象者】 はい、父と母と私の 3 人暮らしです。仕事は短大を卒業してから今の会社に入ったので、今度の 4 月で 4 年目になりました。……あ、もう 2026 年だから、丸 3 年が過ぎて 4 年目に入ったところですね。

【インタビュアー】 ご両親との 3 人暮らしで、お仕事も 4 年目になられるのですね。ありがとうございます。

## 2. 2026 年の G W ・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 それでは、これからのお休みについて伺いたいのですが、まず今年のゴールデンウィークの過ごし方については、何か計画されていますか？

【対象者】 GW は……特にどこかへ旅行に行くとかはないです。実家が自営業というか、ちょっとしたお店を手伝っているの、そこが休みの日も忙しくて。親も「連休は稼ぎ時だから」って感じなので、私も基本的には家のお店を手伝って過ごす予定です。

【インタビュアー】 GW はお家のお店のお手伝いをされるのですね。では、その先の夏休みについてはいかがでしょう。何か計画されていることや、考えていることはありますか？

【対象者】 夏休みは、8 月に 3 泊 4 日で熊本に行こうと思っています。これはもう、飛行機も宿も予約しました。

【インタビュアー】 熊本に行かれるのですね。具体的な計画を伺いたいのですが、どなたと行かれるのですか？また、現地での移動手段や宿泊先などは、どのようなものを選ばれたのでしょうか。

【対象者】 高校の時から親友と 2 人でいきます。移動は羽田から飛行機で、現地ではレンタカーを借りる予定です。宿は、2 泊は阿蘇の方にある、ちょっと自然に囲まれたペンションみたいなところにして、最後の 1 泊だけは熊本市内の普通のビジネスホテルにしました。阿蘇では、乗馬をしたり、綺麗な景色を見ながらゆっくりしたり……。あんまり予定を詰め込みすぎない「自然体験」みたいなことができればいいなと思って。

【インタビュアー】 阿蘇での自然体験をメインに、最後は市内のホテルという構成ですね。その「熊本」という行き先や、このプランに決めた理由を詳しく教えていただけますか？

【対象者】 一番は、都会のガヤガヤした感じから離れたかったからです。仕事でも毎日ビルの中にいて、受付でいろんな人に気を遣って……ってしていると、たまに息が詰まりそうになるというか。SNS で阿蘇の、すごく緑が綺麗な動画が流れてきて、「あ、ここに行きたい」って直感的に思っちゃって。友達に相談したら「私も癒やされたい」って言うてくれたので、そのまま決めました。

【インタビュアー】 「息が詰まりそう」な日常から離れて癒やされたい、という動機があったのですね。プランを立てる際、宿泊先や移動手段などで特に「ここだけは重視した」というポイントはありますか？

【対象者】 うーん……「非日常感」ですかね。阿蘇の宿は、とにかく窓から緑が見えることと、食事が地元の野菜とかをしっかり使っているところをインスタやサイトでめちゃくちゃ調べました。逆に、市内のホテルは「寝られればいい」って割り切って、安さと清潔さだけで選びました。全部を豪華にするのは無理なので、どこに一番お金をかけるか、そのメリハリはすごく意識したと思います。

【インタビュアー】 メリハリを意識されたとのことですが、今回の旅行全体の予算や、費用についてはどのように考えられましたか？ 普段の生活費や、奨学金の返済などとの兼ね合いも含めて教えてください。

【対象者】 全部で10万円くらいには収めたいな……と思ってます。正直、今の私にとって10万円って、数ヶ月分の貯金を全部吐き出すくらい金額なんです。でも、さっき言ったみたいに「失敗したくない」から、中途半端なところに5万円出すくらいなら、1年で一番の贅沢として10万円払って、本当に満足できる体験をしたっていうか。そのために、普段のお昼はお弁当を作って持っていくし、コンビニで飲み物を買うのも我慢してます。この旅行のために「削れるところは全部削ってきた」みたいな感覚はありますね。

【インタビュアー】 「削れるところは全部削って」10万円を捻出されたんですね。今回の計画を立てる際、本当はやりたかったけれど、費用やその他の理由で我慢したことや諦めたことはありますか？

【対象者】 本当は、もう1泊増やしたかったんですよね……。あと、やっぱり円安とか物価高の影響で、レンタカー代とかガソリン代が予想以上に高くて。本当はもっといいグレードの車を借りてドライブしたかったんですけど、そこは一番安い軽自動車にランクを下げました。あと、現地でのお土産代も、あんまり考えないようにしてます。買いすぎると予算オーバーしちゃうので、「自分用にはこれ1つだけ」って決めて行こうかなって。

【インタビュアー】 泊数を削ったり、車のランクを下げたりして調整されたんですね。ちなみに、去年の2025年のお休みと比べて、今年の計画で意識的に変えたことや、状況的に変えざるを得なかった部分はありますか？

【対象者】 去年は、もう少し「映え」というか、話題のスポットを何箇所も回るような、ちょっと忙しい旅行をしてた気がします。でも、今年はもうそういう「みんなが行ってるから」みたいなのはいいかなって。それよりも、自分が本当にリラックスできるかとか、今の自分が求めている静かさがあるか、みたいな基準が変わりました。あとはやっぱり……去年よりさらに物価が上がってる実感があるので、予約するタイミングをめちゃくちゃ早めました。早割とかを必死に探して、少しでも安く抑える努力は去年よりずっと真剣にやったと思います。

【インタビュアー】 先ほど、GWはご実家のお店のお手伝い、夏休みは熊本への旅行というお話を伺いました。このGWと夏休みの過ごし方の「バランス」については、どのように考えられましたか？ 例えば、GWにどこにも行かない分、夏休みに比重を置いたのか、あるいは全く別物として考えたのか、そのあたりを教えてください。

【対象者】 あ、それは明確に「夏休み一択」でバランスを取りました。GWってどこに行っても高いし、混んでるじゃないですか。今の私の収入だと、GWに高いお金を払って人混みを見に行くのは、コスパが悪すぎて耐えられないんです。だから、GWはしっかり働いて（笑）、その分のお金とエネルギーを全部夏休みに注ぎ込むって決めてました。自分の中では「GWを犠牲にして、夏休みを勝ち取る」みたいな感覚に近いかもしれません。

【インタビュアー】 「GWを犠牲にして、夏休みを勝ち取る」という言葉が印象的です。そのように「一点豪華」というか、エネルギーを集中させる考え方は、以前からそうだったのでしょうか？ それとも、2026年の今の状況だからこそそうなののでしょうか。

【対象者】 昔はもっと、休みがあればどこかに行きたいって思っていました。でも今は、物価高の影響が

本当にすごくて……。昔なら3万円のできたことが、今は5万円出さないといけない感覚なんです。そうなると、ちょこちょこ出かけて全部が中途半端になるよりは、回数を極端に減らしてでも、1回を「本物」にしたいっていう意識が強くなりました。奨学金の返済もあと何年も続くし、無駄打ちはできないっていう必死さがあるんだと思います。

【インタビュアー】 無駄打ちはできないという必死さ。先ほども「予約を早めた」とおっしゃっていましたが、今の時代、旅行を計画する上で「自分なりにここだけは賢く立ち回っている」と思う工夫などは他にありますか？

【対象者】 工夫……。そうですね、最近は「デジタル上の情報は信じすぎない」ようにしてます。インスタのキラキラした投稿だけ見て行くと、実際はすごく狭かったり、周りが工事中だったりしてガッカリすることが多くて。だから、あえてGoogleマップの最新の口コミとか、個人のブログのちょっと辛口な意見まで読み込みます。あと、航空券の比較サイトを毎日チェックして、1,000円でも下がったらその瞬間に予約するとか。執念というか、もはや仕事より真剣に画面にかじりついてるかもしれません。

【インタビュアー】 1,000円の変動も逃さない、非常にシビアな感覚で計画されているんですね。そのように徹底的に調べて計画を立てている最中、ふと「本当はもっとこうしたいのに」と、今の社会状況やご自身の環境に対して、もどかしさを感じる瞬間はありますか？

【対象者】 ……めっちゃくちゃありますよ。本当は、こんなに電卓叩かずに旅行したいです。「あ、明日から韓国行こうかな」くらいの軽さで動ける子がたまにSNSにいますけど、そういうのを見ると「どういう生活してるんだろう」って、ちょっと暗い気持ちになります。私は1回の旅行のために、コンビニのコーヒーすら我慢して、数ヶ月前から必死にパズルを組むみたいに予算を立てているのに。でも、これが今の私の現実だし、そうやって苦労して貯めたお金で行くからこそ、阿蘇の景色を見た時に感動できるのかな、って自分に言い聞かせている部分もあります。

【インタビュアー】 苦労して貯めたお金で行くからこそその価値。その「10万円」という予算は、今のあなたにとって、単なる「移動と宿泊の代金」以上の重みがあるように聞こえます。

【対象者】 そうですね。私にとっては、半年間の我慢の塊みたいなものです(笑)。だから、もし天気が悪かったりして台無しになったら、たぶん立ち直れないくらいショックだと思います。でも、だからこそ「絶対に良いものにするんだ」っていう、ある種の覚悟を持って計画を立ててます。今の自分にとって、旅行ってそれくらい重たいイベントなんです。

【インタビュアー】 熊本への旅行について、3泊4日全体の具体的な過ごし方を教えてくださいませんか。阿蘇での自然体験や、それ以外の場所も含めて、どのようなスケジュールやアクティビティを予定されているのでしょうか。

【対象者】 1日目は、お昼頃に熊本空港に着いて、そのままレンタカーで阿蘇に向かいます。途中で「あか牛」のランチを食べて、午後は大観峰っていう景色のいい場所に行って、ひたすらぼーっとする予定です。2日目は、朝から予約している乗馬体験をします。外乗(がいじょう)って言って、柵の中じゃなくて草原を歩けるコースを奮発して予約しました。午後は阿蘇神社の方を散策して、夕方はまた宿でゆっくりします。3日目の午前中まで阿蘇にいて、そこから市内に移動して、熊本城を見てから市内のホテルにチェックイン。4日目にお土産を買って帰る、という流れです。

【インタビュアー】 阿蘇での乗馬や大観峰、市内の散策など、具体的な予定を立てられているのです

ね。それらのアクティビティや行き先は、一緒に行かれる方とどのように相談して決められたのでしょうか。

【対象者】 基本的には、私がインスタやYouTubeで「ここが綺麗そう」という動画をいくつかピックアップして、友達に送って決めました。友達も「仕事のストレスがすごいから、とにかく癒やされたい」と言っていたので、あんまり予定を詰め込まずに、ひとつの場所に長くいるような感じがいいね、って。乗馬も、最初は高いから迷ったんですけど、友達が「これをするために仕事頑張ろうよ」と言ってくれたので、思い切って予約しました。

【インタビュアー】 「これをするために仕事頑張ろう」という会話があったのですね。その「乗馬」や「景色を見てぼーっとする」といった過ごし方に対して、あなたが期待していることや、今の生活とのつながりについて教えてくださいませんか。

【対象者】 期待していること……。とにかく「スマホを見ない時間」を作りたいんです。普段、三鷹と職場の往復だけで、空き時間はついSNSで他人の生活を見て落ち込んだりして。でも、阿蘇の広い景色の中にいたら、そういう細かい悩みとか、節約しなきゃっていうプレッシャーから一瞬でも解放されるんじゃないかなって。私にとってこの旅行は、単なる観光じゃなくて、半分壊れかけてるメンタルをリセットするための「治療」に近い感覚かもしれません。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 今回、熊本への具体的な計画について詳しく伺ってきましたが、今後、新しくやってみたいと思っている旅行や、興味のある形はありますか？

【対象者】 今後……そうですね、いつか海外にも行ってみたいとは思いますが。でも今は現実的じゃないというか。国内でも、もっと知らない場所、例えば東北の静かな温泉地とかにも惹かれます。とにかく、今の生活の延長線上にない場所に身を置きたい、という気持ちが強いです。

【インタビュアー】 「生活の延長線上にない場所」ですね。ちなみに、移動手段として「青春18きっぷ」のようなものを使った旅行や、あるいは最近あるようなYouTubeでの絶景動画、イマーシブ型の疑似体験といった「デジタル旅行」については、どのように感じられますか？

【対象者】 18きっぷは……正直、今の私にはちょっと厳しいです。時間はかかるし、体力も使いそうなので。限られた休みの中で、移動で疲れ果ててしまうのは、今の「癒やされたい」という目的とは違うかなって。デジタル旅行については、あれは「旅行」とは別物だと思ってます。寝る前にYouTubeで綺麗な景色を見て「いつか行きたいな」と思うのは楽しいですけど、それはあくまで予習というか、カタログを見るような感覚です。風の匂いとか、その場の空気感とか……そういう「五感」で感じるものがないと、私にとっては旅行をしたことにはならないです。

【インタビュアー】 「五感で感じるものがないと旅行ではない」とのことですが、では、改めてあなたにとって「旅行」とはどのようなもの、あるいはどのような意味を持つ行為だと言えますか？

【対象者】 ……「正気を保つための儀式」みたいなものかもしれません。毎日、三鷹から満員電車に乗って、受付で笑顔を作って、帰ってきて節約のために自炊して。そういう「削られていく日常」から一度自分を切り離して、ちゃんと「自分」を取り戻すための時間というか。それがないと、何のために働いているのか分からなくなっちゃう気がします。

【インタビュアー】 「正気を保つための儀式」という言葉が出ましたが、今後、さらに物価が上がったり、社会保険料の負担が増えたり、あるいは今返されている奨学金の支払いといった経済的な制約が続く中で、あなたの「旅行」はどう変化していくと思いますか？

【対象者】 ……もっと「贅沢品」になっていくんだと思います。今は年1回、10万円かけて行けてますけど、これが2年に1回になったり、あるいはもっと期間を短くしなきゃいけないかな、って。本当は、もっと気軽に行きたいですよ。「今週末、ちょっと温泉行ってくる」くらい言える余裕が欲しいです。でも現実には、半年かけて1,000円単位で節約して、やっと1回行けるかどうか。この先、もっと厳しくなるなら、旅行に行くこと自体が「必死に掴み取りに行かなきゃいけないもの」になっていく気がします。

【インタビュアー】 「必死に掴み取りに行かなければいけないもの」になるという予想に対して、あなた自身はどのように捉えていますか？

【対象者】 ……すごく息苦しいです。当たり前の楽しみを、こんなに計算して、何かを犠牲にしないと手に入れないってというのが。でも、だからといって諦めたら、本当に仕事だけの人生になっちゃうので。どんなに制約が増えても、たとえ回数が減ったとしても、「これだけは本物を見に行くんだ」という一点豪華な旅行だけは、意地でも守りたいと思ってます。コンビニのコーヒーを我慢してでも、あの阿蘇の景色を自分の目で見ることは、譲りたくないです。

【インタビュアー】 「意地でも守りたい」「これだけは譲りたくない」と思う、その「本物を見に行く」という行為に、そこまでこだわるのはなぜでしょうか。

【対象者】 たぶん、デジタルとか安い代替品で済ませちゃったら、自分の人生そのものが「安上がりなもの」になっちゃう気がするからだと思います。お金がないからって、全部を諦めて画面越しに満足するような人間にはなりたくない。たとえ何を全部切り詰めてでも、一瞬でもいいから「本当に価値がある」と自分が思える場所に立ちたいんです。それが今の私にとって、唯一、自分のプライドを守れる方法なんだと思います。

【インタビュアー】 今、お話の中で「帰ってきて節約のために自炊」とおっしゃいましたが、ご実家暮らしをされている中でのその状況について、もう少し詳しく伺えますか？

【対象者】 あ、えっと……実家なんですけど、うちは基本的に「自分のことは自分です」というルールなんです。両親も共働きで夜遅かったり、お店の片付けがあったりするので。だから、夜ご飯も自分で作って食べることがほとんどですね。それに、お昼のお弁当も自分で作らないと、結局外で1,000円とか飛んでいっちゃうじゃないですか。奨学金を返しながら少しでも旅行代を貯めるには、実家でも甘えてばかりいられないというか……。食材も自分で買ったり、冷蔵庫にあるものを使わせてもらう代わりに少し多めに家にお金を入れたりして、なんとかやりくりしてる感じです。

【インタビュアー】 なるほど。もう一つ、「正気を保つための儀式」という言葉がありましたが、日常がそれほどまでに耐え難いものなののでしょうか。あえて伺いますが、少し表現として大袈裟に感じる部分もあるのですが、そのあたりの実感について詳しく教えてくださいませんか。

【対象者】 ……大袈裟に聞こえますよね。でも、私にとってはそれくらいギリギリなんです。毎日、朝早く起きて満員電車で片道1時間揺られて、職場に着いたら「完璧な笑顔」で誰にでも丁寧に対応して。家に帰っても、親に甘えるわけじゃなく自分で食事を作って、また次の日の準備をして……。SNSを開けば、自分と同世代の子たちがもっと自由に、もっとキラキラした生活を送っているのが目に入

ってきます。物価が上がって、給料は増えないのに奨学金だけは確実に引かれていく。そういう「逃げ場のない現実」がずっと続いていくんだな、って思うと、ふと足元がふわふわするというか、自分がどこにいるのか分からなくなる瞬間があるんです。

【インタビュアー】 「自分がどこにいるのか分からなくなる」という感覚について、もう少し詳しく教えてください。

【対象者】 自分が「ただの労働力」とか「機械の一部」みたいに思えてくるんです。誰にでもできる受付の仕事をして、ただ生きるためだけにお金を稼いで、それをまた生活費と返済に充てる。自分の人生なのに、自分の意志がどこにもないような気がして。だから、半年に一度、自分の意志で選んだ場所に行って、自分の五感で本物の景色を見るっていう行為が必要なんです。それがないと、たぶん日々のルーティンに飲み込まれて、心が死んでしまう。私にとって旅行は、単なる遊びじゃなくて「私はまだ、自分の意志で動ける人間なんだ」って再確認するための、最後の手がかりみたいなものなんです。

【インタビュアー】 自分の意志で動ける人間だと再確認するための、最後の手がかり。その「本物」に触れることが、あなたのプライドを守る唯一の方法だというお話とも繋がりますね。

【対象者】 はい。だからこそ、デジタル旅行じゃダメなんです。画面の中の綺麗な景色は、誰かが作った「消費されるための映像」でしかないから。自分の足で行って、その場の空気を感じて、10万円という重みを自分で背負って体験すること。そうやって苦労して手に入れた「本物の体験」だけが、私の中に積み重なって、私という人間を作ってくれる気がしています。今のこの社会で、自分を見失わずに生きていくには、それくらい必死にならないと守れないものがあるんです。

【インタビュアー】 無理に旅行に行かずに、その分日常生活を楽しむという選択肢はないのでしょうか

【対象者】 ……そうですね。普通に考えたら、そうなんだと思います。その10万円を毎月の美味しいご飯とか、欲しかった服に回したほうが、日常の満足度は上がるのかもしれませんが。でも、私にとってはそれだと「毎日をただやり過ごしているだけ」の状態が変わらないんです。

日常生活の中での「楽しみ」って、どうしても今の自分の延長線上でしかないというか。三鷹の家があって、職場があって、その往復の途中で何かを買ったり食べたりしても、それは「日常の補修」でしかない気がして。

私、このまま何十年も、決まった場所で決まった役割を演じて、奨学金を返して、物価高に怯えて生きていくのかって思うと、たまにすごく怖くなるんです。だから、たとえ無理をしてでも、一度そのサイクルから自分を完全に引き剥がして、誰の視線もない、自分の役割もない場所に自分を置かないと、心が摩耗して消えてしまいそうで。

日常生活を楽しむ余裕を作るための旅行、というよりは、日常生活という「檻」から一瞬だけ脱走するための費用、と言ったほうが近いかもしれません。そこまでしないと、自分が「自分の人生を生きている」という感覚が持てないんだと思います。

【インタビュアー】 本日は、日々の生活のことや旅行への思いについて、貴重なお話を詳しく聞かせていただき、本当にありがとうございました。